

中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(平成29年度)

中土佐町基礎データ

合併状況:平成18年1月に1町1村が合併
人口:7,064人(平成29年11月現在)
面積:193.28平方キロメートル

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

中土佐町における主な公共交通概要

○鉄道:JR四国(土讃線)

○バス

(幹線)

①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を
経由する民間事業路線

②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経由する民間事
業路線

(フィーダー)

・平成28年度地域内フィーダー系統として町内を運行してい
るコミュニティバスは、全10系統

久礼地区では、土佐久礼駅を起点に7系統が運行

大野見地区では、大野見保健福祉センターを起点に3系
統が運行している。

・フィーダー系統

①萩原循環線

②大野鎌田線

③黒石野線

④黒石野線(楠の川)

⑤松の川川崎線

⑥大坂線

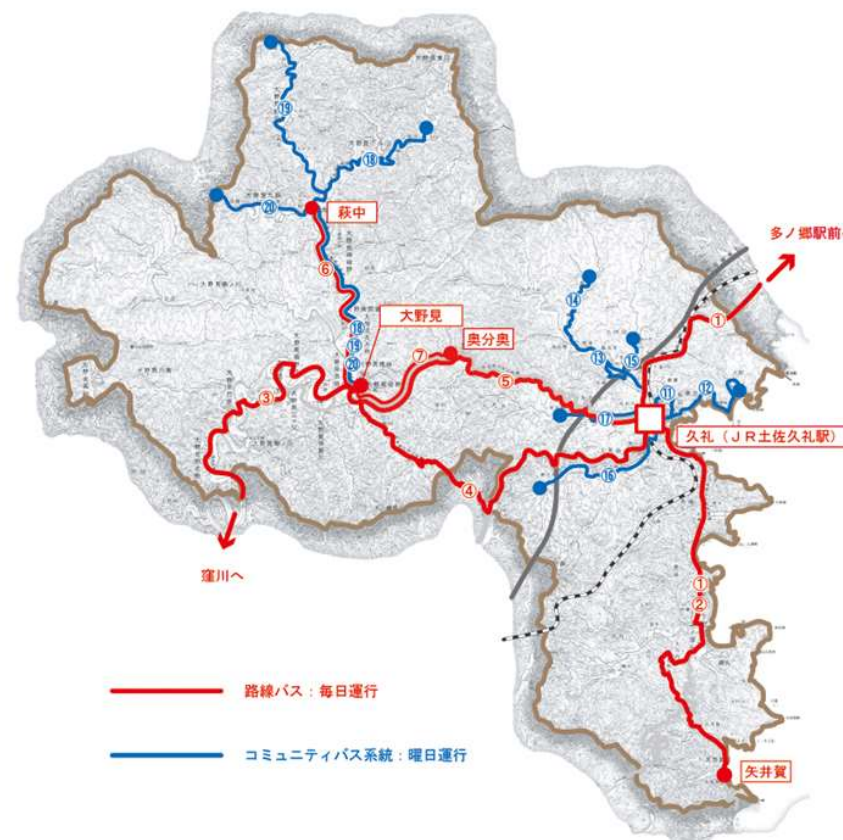
⑦長沢線

⑧下ル川線

⑨萩中線

⑩高樋線

中土佐町の公共交通ネットワーク図



中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(平成29年度)

協議会の構成員

高知県 中土佐町 町内利用者代表
高知高陵交通(株) (株)四万十交通 (有)中土佐ハイヤー
(社)高知県バス協会 高知運輸支局 須崎警察署

前年度の事業評価における課題

現在までの運行状況と利用者・各地域でのヒアリングを通じて、著しく利用者数の少ない系統の休廃止や交通空白地域への新たな系統の確保など、引き続き各路線の状況及び利用者ニーズの把握を行い、各路線の再編・運行ダイヤの見直し等を検討していく必要がある。

定量的な目標・効果

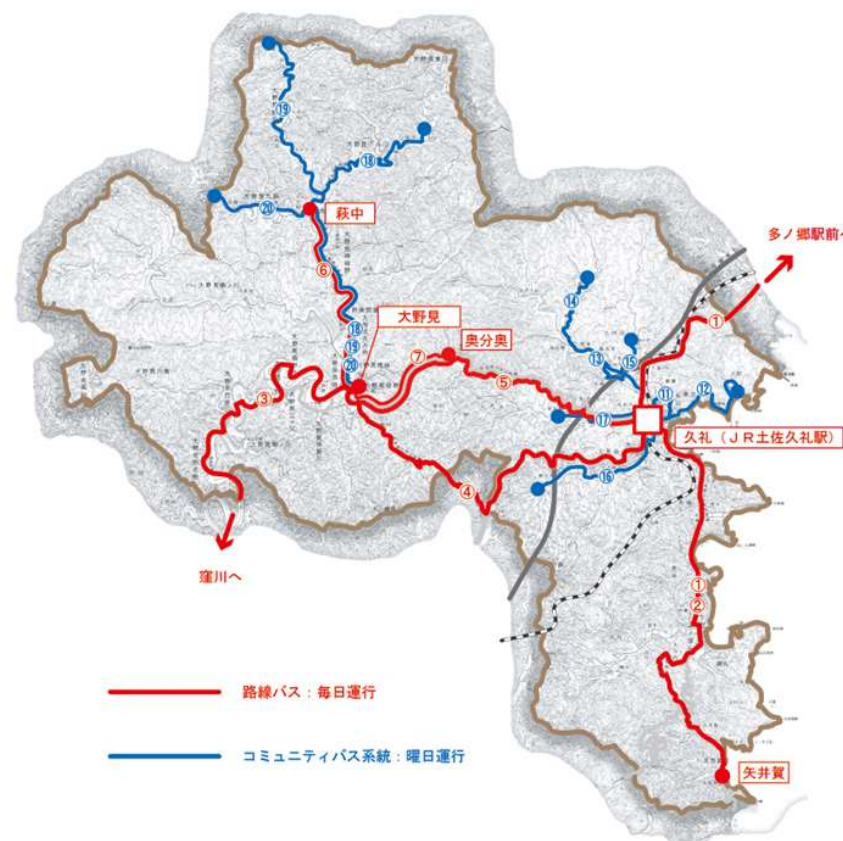
(目標)

- ・系統⑪⑰は、1日当たりの利用者数を5人以上
- ・系統⑫⑬は、1日当たりの利用者数を2人以上
- ・系統⑭は、1日当たりの利用者数を12人以上
- ・系統⑮は、1日当たりの利用者数を6人以上
- ・系統⑯は、1日当たりの利用者数を3人以上
- ・系統⑱は、1日当たりの利用者数を25人以上
- ・系統⑲は、1日当たりの利用者数を20人以上
- ・系統⑳は、1日当たりの利用者数を15人以上

(効果)

- ・各系統の運行を維持することで、中山間地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。
- また、幹線系統の路線バスと連携することにより、広域的な移動における利便性が向上する。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための取組

- ・路線再編について、路線バス及びコミュニティバス沿線地域の住民との説明会及び意見交換会を行った。
- ・全区間を対象とした利用者アンケートを行った。
- ・地域公共交通会議を平成29年6月に開催し、今後のフィーダー系統各路線の維持・再編について協議を行った。
- ・利用者及び非利用者の意見を元に、一部路線の経路や運行ダイヤを変更した。
- ・実際に運行している車両を高齢者の集まる意見交換会などに持ち込み、車両を間近で見てもらい、乗車体験などを行うことで、親近感を持ってもらい、いずれは利用につながるよう啓発活動を行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・平成27年10月1日運行からの各路線再編を実施後、利用者及びバス路線沿線地域の住民との意見交換会及び運行事業者との協議を行い、バス路線については一定の整備を図ることができた。また、JR及び幹線系統との接続ダイヤを見直し、利便性の向上を図ることができた。
- ・全ての系統が目標値を下回っているものの、これまでにコミュニティバスを利用していなかった住民の利用増加が図られた。また、高齢者の買い物・通院等への足として機能した。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・系統 ⑪萩原循環線、⑫大野鎌田線、⑬黒石野線、⑰長沢線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に対し50%に達しておらず著しく利用が少ない状況にある。
- ・系統 ⑭黒石野線(楠の川)、⑮松の川川崎線、⑯大坂線、⑱下ル川線、⑲萩中線、⑳高樋線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標値に達していないが、目標値に対し60%以上の利用率を確保できている。
- ・全ての系統において目標値に達しておらず、久礼地区を運行するコミュニティバスに関しては、ほとんどの系統が1運行当たりの利用者数1.0人を下回る結果となっている。移動手段の少ない高齢者にとっては、日常の生活交通手段として定着しているものの、著しく利用の少ない系統については、運行形態の見直しや休廃止を検討していく必要がある。

事業の今後の改善点

地域内公共交通ネットワークの再編等を実施することで、大部分の公共交通空白地区の解消に向けた整備は出来たが、現在も部分的に公共交通空白地区が存在しており、こういった地区の住民の生活交通手段を確保する事が課題となっている。

今後、まちづくりと連携した公共交通ネットワークを整備するため、公共交通網形成計画の策定に取り組み、公共交通の利用促進に向けた広報や地域ヒアリング等を引き続き実施し、高齢化が進む本町の移動手段を確保し、安心安全な地域生活を守る地域公共交通を目指す。

その他PRポイント

非利用者の意見からは想定していなかった要望などが突きつけられるものの、中には「なるほど」と納得させられる意見もあり、可能なものについては路線見直しの参考とさせていただいた。

また、実際に運行している車両を持ち込んで意見交換会を行ったことにより、非利用者がコミュニティバスそのものに親近感を持ってもらえたことは間違いないと考える。今後も地道に利用促進につながる取り組みを行っていききたい。